



スノーシューハイキング

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・積雪期にしかできない活動をとおして、雪国の自然に親しむことができます。
- ・動物の足跡や樹木の冬芽等を観察することにより、生命の営みが冬でも続いていることに気づくことができます。

2 活動の概要

スノーシューをはいて白銀のフィールドを歩き、アニマルトラッキングや冬芽の観察をする活動です。冬でもたくましく活動している動物たちや、寒さに耐えじっと春を待つ植物たちを観察します。

- (1)人数 30人以内
- (2)対象 小学校3年生以上
- (3)期間 1月上旬～3月上旬
- (4)時間 1～1.5時間（説明20分+活動40～70分）
- (5)場所 自然の家活動エリア
- (6)経費 無料
- (7)指導 依頼のある場合、自然の家職員が説明を行う。



<活動の様子>

3 準備物

団体	救急薬品
個人	帽子、手袋、長靴、冬の野外活動に適した服装
自然の家	ピプス、スノーシュー、無線機（8台）

4 引率者の役割分担

役割名	内容
代表責任者	1名。責任者として全体の総括、指揮、連絡にあたる。
活動支援者	数名。隊列の前後や途中に付き、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。

◎自然の家で見られる冬芽・足跡の例



<オオカメノキ>



<ホオノキ>



<オニグルミ>



<オオバクロモジ>



<ノウサギ>



<ニホンリス>

5 活動の流れ

	内 容
説 明 準 備	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理、服装（防寒着・帽子・手袋）、スノーシューについて説明 ビブス、スノーシューの貸出
活 動	<ul style="list-style-type: none"> 動物の足跡、食跡、排泄物等を手がかりに、雪の中での行動を想像する。 樹木の冬芽や葉痕を観察し、冬でも生命の営みが続いていることに気づく。 人員の確認をする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ふりかえり 借用物品の返却（無線機は事務室へ返却）

6 実施上の留意点

- 冬の屋外での活動なので、事前・事後の健康管理に気をつける。
- コース上にトイレはないので、出発前に必ずトイレを済ませるようにする。
- 長靴のサイズが小さい場合は、スノーシューが外れやすいので装着状況を確認する。
- 直前の踏査が必要であるため活動時間の設定は、踏査時間を加味した余裕のあるものとする。
- コースについては事前に職員と相談の上、決めることができる。

7 安全に実施するためのポイント

- 荒天時は中止する。
- 実施当日に、コースの安全確認を行う。

8 活動エリア

